

沿 革 史



吹田市防火連合会奨励賞

吹田市防火作品図画の部入賞作品

沿革の概要

本市は、古来から防火思想が普及し、近世においては特筆すべき大火はなかった。強いて史実をひもとけば、応仁天正の戦乱に村内諸寺を始め、民家多数兵火に滅ぶと著述している。

幕末から明治の初めにかけては、若中達により組織されていた私設消防組が各地区にあり、万一の場合には寺院の梵鐘を乱打し、竜吐水、水桶をもって消火に当たる状態であった。

年 月	記 事
明治39年 7月	△公設吹田村消防組発足。(組頭以下35名、腕用ポンプ1台)
大正10年 7月	△蒸気ポンプを購入し配置する。
13年 9月	△防火用貯水池4か所設置。
15年 1月	△防火宣伝、消防演習競技大会を開催する。
昭和 2年10月	△上水道敷設に伴い防火栓158設置。
9年 3月	△消防ポンプ自動車購入配置。(森田式フォードV8タービン消防ポンプ自動車)
6月	△消防会館、新築工事完成。(吹田町697番地の1)
9月	△室戸台風襲来。
10月	△消防会館に電話を架設(800番)する。
10年 9月	△吹田町消防組ポンプ操法及び防火栓使用操法制定する。
11年 8月	△吹田町水防団結成する。
12年 3月	△火災専用電話架設する。
13年 3月	△大日本消防協会から優良消防組として表彰旗を受ける。
14年 3月	△消防組を解散、防護団と合体し、警防団を編成、常備消防部を組織する。
15年 4月	△市制施行。(面積20.45km ² 、人口63,181人)
16年 9月	△吹田常備消防部を大阪府特設消防署に編入、吹田消防署と改称、同時に豊津、千里、岸部常備消防屯所をそれぞれ豊津、千里、岸部出張所と改称する。
18年12月	△吹田重要施設消防研究会設立。(会員数38工場、のちに吹田工場防火協会に改称)
20年 7月	△吹田市消防署勤務消防曹長中野藤三郎は、空襲による非常参集に際し、殉職する。 △大阪府豊中特別出張所が吹田消防署豊中特別出張所に改称する。
21年 3月	△吹田消防署豊中特別出張所が独立して豊中消防署となる。
11月	△吹田市消防署勤務消防手麻田芳太郎は、ポンプ車にて出動に際し、交通事故により殉職する。
22年 4月	△吹田消防署茨木出張所を開設、同時に吹田消防署岸部出張所を閉鎖する。
9月	△初代消防団長に、中西藤吉氏就任。
11月	△警防団を改称し、消防団を結団する。
12月	△消防組織法公布。
23年 2月	△消防組織法の施行に先立ち、吹田市内1市14ヶ村消防組合を設置。 △初代消防長兼署長に、木村忠雄氏就任。

総務 予 防 警 防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿革史	年 月	記 事
	昭和23年 3月	△消防組織法の施行により官設消防署は警察と分離し、自治体消防として吹田市外1市14ヶ村消防組合吹田消防署発足する。
	23年 7月	△吹田消防署岸部出張所開設する。
		△吹田市危険物協会設立される。
	10月	△吹田消防署茨木出張所が独立して茨木消防署となる。
	11月	△吹田市外1市14ヶ村組合消防署を吹田市外6ヶ村消防組合消防署に改組する。
	12月	△第2代消防長に、吹田市助役の小川忠恵氏就任。
	24年 3月	△川面町 4724番地 中村木材工業所出火、木造平屋建て倉庫兼住宅 3棟全焼、焼損面積1,366㎡、損害額22,800千円。
	11月	△吹田市外6ヶ村消防組合を解散、吹田市消防署発足する。
	25年 3月	△第2代消防団長に、北口八十吉氏就任。
	6月	△吹田市消防署と吹田市消防団を統合した吹田市消防本部を設置する。
	9月	△ジェーン台風襲来(家屋全壊96、半壊201、負傷者6人、り災者数1,512人)
	26年 3月	△第3代消防長に、木村忠雄氏就任。
	28年 7月	△新田村分村合併により吹田市消防団千里第二分団新田班を設置する。 (のちに春日班に改称)
	9月	△台風第13号襲来。
	30年 4月	△吹田市2688番地 吹田市役所出火、木造2階建て議事堂全焼、類焼2棟、焼損面積937㎡、損害額16,436千円。
	10月	△山田村合併(面積37.4km ² 、人口97,432人)に伴い吹田市消防団山田分団及び千里丘班を設置する。
	32年 3月	△原町2185番地 府立吹田高等学校出火、木造2階建て校舎半焼、焼損面積825㎡、損害額7,830千円。
	7月	△大字榎坂1366番地 新生紙業(株)出火、木造平屋建て事務所及び作業場2棟全焼、焼損面積1,221㎡、損害額33,676千円。
	10月	△吹一分団が第1回大阪府消防操法訓練大会・ポンプ車操法の部で優勝。
	33年 6月	△消防無線局を開設。(波長2120 K C 出力3W)
	34年 9月	△伊勢湾台風襲来。
	35年 1月	△山田分団千里丘班は分離独立し千里丘分団に改称する。
	6月	△消防本部、署合同庁舎新築竣工し、供用開始する。
		△第3代消防団長に、大畑 義氏就任。
	36年 1月	△吹田市消防本部勤務消防士吉川嘉藤志(49歳)は、歳末特別警戒時の訓練中に際し、交通事故により殉職する。
	4月	△御旅町5050番地 木造平屋建て住宅出火、全焼5棟、半焼1棟、部分焼3棟、焼損面積1,005㎡、損害額16,316千円。
		△救急業務を開始する。
		△川面町4744 番地(吹田大橋下) 木造平屋建て住宅出火、全焼33棟、部分焼1棟、焼損面積 971 ㎡、り災世帯 48 世帯、人員 171 人、損害額 16,608 千円。

年 月	記 事	総務 予防 警防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿 革 史
昭和36年 9月	△第2室戸台風襲来。(家屋全壊9、半壊28)	総 務
10月	△千里丘出張所開設(市出張所、公民館合同庁舎)する。	
37年 4月	△下新田町4500番地 紀州製紙(株)大阪工場出火、鉄骨造平屋建て倉庫3棟 全焼、焼損面積1,940㎡、損害額80,534千円。	予
39年 5月	△第4代消防長に、中村卯一氏就任。	防
6月	△消防相談所を開設する。	
8月	△吹田市建設業防火協会発足。 △第4代消防団長に、奥野藤治郎氏就任。	警
40年 3月	△スノーケル車を購入し消防署に配置する。	防
4月	△岸部分団車庫新築移転する。(吹田市小路955番地)	
6月	△吹田市公衆集合場防火協会設立。	指
11月	△東御旅町2番46号 富士ニット加工(株) 出火、木造平屋建て作業場兼倉庫 全焼、類焼11棟(全焼6棟、半焼1棟、部分焼4棟)、焼損面積1,714㎡、損害額 93,535千円。	
12月	△藤井藤治郎氏から救急車の寄贈を受け「藤井号」と命名する。	令
41年 3月	△超短波無線局を開設。(波長149.73MC、出力10W)	救
5月	△通称「赤バイ」を購入し配置する。(ホンダCB160型)	
8月	△北消防署庁舎新築竣工、供用開始するとともに本部機構を3課9係に改革し、 吹田市消防署を吹田市南消防署に改称する。	急
42年 1月	△東御旅町5番11号(株)善元商店出火、木造平屋建て作業場・電気室全焼、 類焼10棟(全焼5棟、半焼1棟、部分焼4棟)、焼損面積1,566㎡、損害額 26,938千円。	救
10月	△日本万国博覧会消防対策本部設置。(大阪府消防救助課内)	助
43年 6月	△山本幸一郎氏から救急車の寄贈を受け「やまと号」と命名する。	
7月	△集中豪雨。(床上浸水87戸、床下浸水1,168戸)	火
10月	△本部機構を改革し、万国博消防対策室を北消防署内に設置する。	
12月	△万国博消防警備強化のため大阪市と消防職員派遣協定を締結(派遣人員85名) する。	災
44年 3月	△豊中市と万国博消防職員派遣協定を締結(派遣人員15名)する。 △はしご車(32メートル級)を購入し、北消防署に配置する。	
4月	△万国博消防署開設する。	消 防 団
11月	△日本損害保険協会から寄贈の車両を受納(はしご車1台、化学車1台、特殊作業車 1台、ポンプ車4台、タンク車3台、救急車8台、赤バイ3台、査察車1台、司令車1台、 計23台)する。	

総務 予 防 警 防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿革史	年 月	記 事										
	昭和44年11月	△高槻市、茨木市、池田市、箕面市、摂津市の5市と万国博消防職員派遣協定を締結（派遣人員 高槻市5名、茨木市10名、池田市5名、箕面市5名、摂津市5名）する。 △日本生命保険協会から寄贈の車両を受納(救急車7台) する。										
	45年 3月	△万国博消防署東・西出張所開設する。										
	4月	△万国博覧会開幕。										
	6月	△南消防署岸部出張所改築工事が竣工する。										
	9月	△皇太子殿下、同妃ご夫妻万国博消防署西出張所に御来臨、慰労のお言葉を賜る。 △万国博覧会閉会。										
		<table><tr><td>入 場 者 数</td><td>64,218,770人</td></tr><tr><td>救急出場件数</td><td>11,069件</td></tr><tr><td>搬 送 人 員</td><td>11,306人</td></tr><tr><td>火 災 件 数</td><td>21件</td></tr><tr><td>焼 失 面 積</td><td>0 m²</td></tr></table>	入 場 者 数	64,218,770人	救急出場件数	11,069件	搬 送 人 員	11,306人	火 災 件 数	21件	焼 失 面 積	0 m ²
入 場 者 数	64,218,770人											
救急出場件数	11,069件											
搬 送 人 員	11,306人											
火 災 件 数	21件											
焼 失 面 積	0 m ²											
	11月	△万国博消防署は万国博覧会消防対策室に業務を引継ぎ廃署する。										
	12月	△万国博覧会消防対策室廃室する。										
	46年 3月	△北消防署勤務消防士田中常治(21歳)は、竹見台2丁目で発生した火災に際し、殉職する。 △消防司令補故田中常治の吹田市公葬を執行する。										
	5月	△南消防署西分署庁舎が竣工し、供用開始する。										
	11月	△婦人消防吏員を採用(5名 内2名は47年4月1日付) する。 △西御旅町5番8号 日本触媒(株)吹田工場出火、鉄骨造5階建て工場全焼、類焼1棟、焼損面積1,127m ² 、損害額92,594千円。										
	47年 3月	△東御旅町5番16号 塩川染工場出火、工場全焼、類焼30棟(全焼16棟、半焼2棟、部分焼12棟)、焼損面積5,824m ² 、負傷者6名、損害額329,783千円。										
	12月	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急車の寄贈を受ける。 △山本杉松氏から救急車の寄贈を受け、「やまか号」と命名する。										
	48年 6月	△南消防署千里出張所、消防団千二分団合同庁舎改築工事が竣工し、供用開始する。										
	8月	△中国縦貫自動車道路のうち吹田、宝塚インターチェンジ間における消防業務の処理について5市間(吹田市、豊中市、池田市、川西市、宝塚市)において消防相互応援協定を締結する。										

年 月	記 事	総務 予 防 警 防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿 革 史								
昭和49年										
7月13日	△万国博会場記念公園内で中華人民共和国展覧会が開催され、救急分駐所を開設し、救急車2台、救急隊員8名を配置する。									
8月11日	△中華人民共和国展覧会閉会。 <table><tr><td>入 場 者 数</td><td>2,606,322人</td></tr><tr><td>救急出場件数</td><td>121件</td></tr><tr><td>搬 送 人 員</td><td>107人</td></tr><tr><td>消 防 事 故</td><td>1 件</td></tr></table>	入 場 者 数	2,606,322人	救急出場件数	121件	搬 送 人 員	107人	消 防 事 故	1 件	
入 場 者 数	2,606,322人									
救急出場件数	121件									
搬 送 人 員	107人									
消 防 事 故	1 件									
9月 1日	△第5代消防団長に、梶 重治郎氏就任。 △第5代消防長に、野村信男氏就任。									
50年 7月11日	△消防本部、南消防署合同庁舎の完成に伴い移転し、供用開始する。									
11月26日	△豊津分団車庫が竣工し、供用開始する。									
51年 3月31日	△38メートル級はしご車を購入し、南消防署西分署に配置する。									
7月 4日	△南吹田3丁目13番6号 吹田ピアノセンター出火、鉄骨造2階建て事務所兼倉庫部分焼、損害額106,919千円。									
7月 9日	△千里山月が丘9番1号 木造2階建て住宅出火、部分焼1棟、死者3名。									
11月 8日	△千一分団車庫併用消防吏員待機宿舎の建設にあたり、地鎮祭がとり行なわれる。									
52年 3月31日	△千一分団車庫併用消防吏員待機宿舎が竣工する。									
4月 1日	△南消防署西分署が署に昇格し、西消防署となる。 消防体制は1本部3課9係3署3出張所となる。									
10月 1日	△「消防行政担当区制度」を実施する。									
11月30日	△西消防署の増築工事が完工する。									
53年 2月21日	△日本損害保険協会から救急車の寄贈を受ける。									
3月 8日	△自治体消防発足30周年式典を挙げる。									
3月25日	△北建設株式会社から予防広報車3台の寄贈を受ける。									
5月 2日	△清水4209番1号 (株) サン・エクスプレス出火、鉄骨造2階建て倉庫兼事務所全焼、焼損面積1,614㎡、損害額414,548千円。									
10月16日	△救助工作車を購入し、同日から専任救助隊を発足する。 これに伴い消防本部の機構改革を行う。 消防体制は1本部3課10係1室3署3出張所となる。									
12月20日	△市域境界線上に位置する消防対象物の取扱いに関して、大阪市と予防行政協定を締結する。									
54年 2月28日	△北消防署の増改築工事が完工する。									
7月 1日	△南、北、西消防署に兼任救助隊を配置する。									

総務 予 防 警 防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿革史	年 月	記 事
	昭和54年	
	8月 1日	△第8回消防救助技術近畿地区指導会を北ブロック消防本部担当で大阪市消防学校において開催する。
	11月14日	△第12回全国消防長会救急委員会を当市担当で開催する。
	15日	(共済会館新大阪、万国博記念公園)
	55年 3月26日	△大阪府共済農業協同組合連合会から救急車の寄贈を受ける。
	5月 3日	△市制40周年記念消防フェスティバルを朝日麦酒グラウンドで開催する。
	11月27日	△消防100年記念消防団全国大会が東京(後樂園)において挙行され、分団長以上14名が参加する。
	56年 1月29日	△屈折はしご自動車を購入し、南消防署に配置する。
	3月14日	△平田三郎氏から救急車の寄贈を受け「ひらた号」と命名する。
	4月28日	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急車の寄贈を受ける。
	5月26日	△「第9回名神高速道路消防協議会総会」を当市担当で吹田市民会館において開催する。
	7月28日	△大阪瓦斯株式会社淀川支社と「ガス漏れ及び爆発事故の防災対策に関する申し合わせ」を締結し、8月10日から実施する。
	7月31日	△電源照明車を購入し、本部に配置する。
	10月23日	△吹田市火災共済条例及び同施行令公布。(一部公布と同時施行)
	10月30日	△昭和56年度大阪府地域震災総合訓練を大阪府・大阪府警察と共催で千里北公園において実施する。
	12月 6日	△婦人防火協力会発会式(6組織、会員111名)を挙行する。
	12月23日	△消防ポンプ自動車を購入し、千二分団に配置する。
	57年 1月27日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。
	1月29日	△消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。
	9月 4日	△藤井則彦氏から救急車の寄贈を受け「ふじい号」と命名、西消防署千里出張所に配置する。
	11月15日	△北消防署予備車車庫完工する。
	58年 1月20日	△吹一分団車庫が竣工し、供用開始する。
	2月23日	△上山手町婦人防火協力会が会員20名をもって結成される。
	3月 7日	△自治体消防発足35周年記念式典を市民会館において挙行する。
	3月31日	△吹田市防火連合会からパーソナル・コンピュータの寄贈を受ける。
	7月 2日	△中消防庁舎の起工式を挙行する。
	8月 8日	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急車の寄贈を受け、南消防署岸部出張所に配置する。

年 月	記 事	総務予防警防指令救急救火災消防団沿革史
昭和58年		
9月 1日	△本郷町婦人防火協力会が会員15名をもって結成される。	
11月 9日	△財団法人日本防火協会から吹田市防火連合会に防火広報車の寄贈を受ける。	
11月10日	△本郷町婦人防火協力会が会員20名をもって結成される。	
59年 1月 1日	△千里山西6丁目1531番地 倉庫出火、木造2階建て倉庫全焼、類焼2棟、焼損面積2,842㎡、損害額17,493千円。	
1月14日	△第6代消防団長に、松中勇七氏就任。	
3月15日	△中消防庁舎に配置すべく消防ポンプ自動車を購入する。	
3月25日	△消防団は優良消防機関として、大阪府消防協会長から表彰され、竿頭綬を受ける。	
3月31日	△消防警備のより一層の充実強化を図るため、かねて建設中の中消防庁舎が竣工する。	
4月 1日	△中消防庁舎の供用を開始し、特別消防隊を設置する。 これに伴い消防本部の機構改革を行う。 消防体制は1本部3課1隊10係1室3署3出張所となる。	
8月 1日	△吹田市火災共済事務が消防本部から市長部局へ移管となる。	
9月 1日	△都呂須婦人防火協力会が会員23名をもって結成される。	
9月 2日	△大阪府消防協会三島地区支部総合訓練を吹田市が当番市として、千里万博公園において実施する。	
10月11日	△南消防署南正雀出張所の起工式を挙げる。	
11月28日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。 △消防ポンプ自動車を購入し、豊津分団に配置する。	
60年 2月13日	△江の木町21番1号 東洋エアテック(株)出火、鉄骨造2階建て作業場兼事務所半焼、焼損面積343㎡、損害額251,528千円	
3月11日	△南消防署南正雀出張所に配置すべく消防ポンプ自動車を購入する。	
3月25日	△47メートル級はしご付消防自動車を購入し、南消防署に配置する。	
3月30日	△南正雀地区、川園地区周辺の消防警備の充実強化を図るため、かねて建設中の南消防署南正雀出張所が竣工する。	
4月 1日	△南消防署南正雀出張所の供用を開始する。 消防体制は1本部3課1隊10係1室3署4出張所となる。	
9月 7日	△中消防庁舎訓練塔の起工式を挙げる。	
11月25日	△起震車を購入し、中消防庁舎に配置する。	
12月11日	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急車の寄贈を受ける。	
12月12日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹一分団に配置する。	
12月25日	△小型動力ポンプ付水槽車を購入し、中消防庁舎に配置する。	

総務 予防 警防 指令 救急 救助 火災 消防団 沿革史	年 月	記 事
	昭和61年	
	1月31日	△消防訓練施設の充実を図るため、かねて建設中の中消防庁舎訓練塔が竣工する。
	3月26日	△川面町婦人防火協力会が会員数23名をもって結成される。
	4月 1日	△国際消防救助隊（I R T・J F）発足に伴い派遣協力することとなり、隊員を登録する。
	8月18日	△社団法人日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車の寄贈を受け、中消防庁舎に配置する。
	10月16日	△小型動力ポンプ付積載車を購入し、千二分団春日班に配置する。
	10月20日	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急車の寄贈を受け、南消防署に配置する。
	12月15日	△消防ポンプ自動車を購入し、千里丘分団に配置する。
	62年 2月28日	△東消防署の起工式を挙げる。
	3月 4日	△寄町婦人防火協力会が会員19名をもって結成される。
	3月10日	△通信指令台の更新に伴い、消防緊急情報システムを整備する。
	5月 7日	△清和園町婦人防火協力会が会員21名をもって結成される。
	7月 1日	△第6代消防長に、松田良雄氏就任。
	9月 1日	△迅速かつ的確な消防活動体制の確立、予防行政事務の一元化を図るため組織機構の改革を行う。 消防体制は1本部4課1隊15係3署9係4出張所となる。
		△吹田市婦人防火協力会連絡協議会が、各婦人防火協力会会長をもって結成される。
	10月24日	△吹田千里ライオンズクラブから救急車の寄贈を受け、北消防署に配置する。
	11月12日	△全国消防長会救急委員会常任委員会及び第28回救急委員会を当市担当で吹田市文化会館において開催する。
	13日	
	12月10日	△消防ポンプ自動車2台を購入し、吹二分団及び岸部分団へ各1台配置する。
	12月19日	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急車の寄贈を受け、西消防署千里出張所に配置する。
	12月23日	△橋本一郎氏から救急車の寄贈を受け、「関根号」と命名する。
	63年 2月15日	△東消防署が竣工する。
	3月 1日	△自治体消防発足40周年記念式典を吹田市文化会館において挙げる。
	3月15日	△東消防署に配置すべく水槽付消防ポンプ自動車を購入する。
	3月28日	△東消防署に配置すべく30メートル級はしご付消防自動車を購入する。
	3月31日	△東消防署の竣工式を挙げる。
		△東消防署の供用開始に伴い、北消防署千里丘出張所を廃止する。

年 月	記 事	総務 予防 警防 指令 救急 救助 火災 消防団 沿革史
昭和63年		
4月 1日	△東消防署の供用を開始する。 消防体制は1本部4課1隊15係4署12係3出張所となる。	
	△消防音楽隊設置に向け、吹田市消防音楽隊設置準備委員会を設置する。	
9月 1日	△大阪府下広域消防相互応援協定を締結する。	
	△東町婦人防火協力会が会員23名をもって結成される。	
9月16日	△「婦防さつき会」が吹田市婦人防火協力会退会者131名をもって結成される。	
10月28日	△救助資機材を購入し、特別消防隊に配置する。	
平成元年		
3月22日	△30メートル級はしご付消防自動車を購入し、南消防署に配置する。	
3月31日	△ミニ化学車を購入し、北消防署に配置する。	
4月 1日	△吹田市防災行政無線(固定系遠隔制御装置)が設置される。	
10月17日	△千里万博公園南第2駐車場において第1回自衛消防隊消防操法指導会を実施する。	
10月22日	△第32回大阪府消防操法訓練大会において、吹一分団が「ポンプ自動車の部」で準優勝する。	
10月25日	△消防本部講堂において文化祭を実施する。	
26日		
12月12日	△株式会社近畿建設産業からマイクロバス及び救急車の寄贈を受け、マイクロバスは特別消防隊に、救急車は西消防署にそれぞれ配置する。	
12月19日	△消防ポンプ自動車を購入し、千一分団に配置する。	
12月25日	△資機材搬送車を購入し、消防本部に配置する。	
12月26日	△救助工作車及び救助資機材を購入し、特別消防隊に配置する。	
平成2年		
2月 1日	△吹田市防火連合会から「吹田消防の歌」の寄贈を受ける。	
3月 8日	△大阪府共済農業協同組合連合会から救急車の寄贈を受け、東消防署岸部出張所に配置する。	
3月27日	△長野町婦人防火協力会が会員13名をもって結成される。	
3月30日	△消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。	
4月 1日	△「吹田市消防音楽隊」を発足する。	
7月27日	△吹田市藤白台5丁目 国立循環器病センター本館1階CT検査室部分焼超高速CTスキャナー焼損 損害額119,783千円。 △株式会社近畿建設産業からマイクロバス及びミニ化学車の寄贈を受け、マイクロバスは消防本部に、ミニ化学車は西消防署に配置する。	

総務予防火指 令救急救火 消防団沿革史	年 月	記 事
総務	平成2年	
	9月 1日	△千里丘町婦人防火協力会が会員18名をもって結成される。
予防	11月20日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署岸部出張所に配置する。
	平成3年	
防火	2月26日	△防災救急指導車を購入し、特別消防隊に配置する。
	3月 3日	△4週6休制を実施する。
警指	3月25日	△ミニ化学車を購入し、東消防署に配置する。
	3月27日	△浜の堂婦人防火協力会が会員20名をもって結成される。 △消防団車両に無線機を設置する。これに伴う取扱、交信要領の訓練を実施する。
令	7月 1日	△昼間に限り、各署・隊の受付業務委託を実施する。
	8月 7日	△株式会社近畿建設産業からミニ化学車、防火広報車及びワープロの寄贈を受け、ミニ化学車は南署、防火広報車は北署、ワープロは本部に配置する。
救急	9月 3日	△第7代消防長に、河原忠義氏就任。
	平成4年	
救	2月12日	△「吹田市防災講演会・婦人防火協力会発足10周年記念大会」を実施する。
	3月 2日	△小路町婦人防火協力会が会員19名をもって結成される。
助	3月19日	△広報車を購入し、北消防署に配置する。
	3月25日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西消防署に配置する。
火	10月31日	△社団法人大阪府モーターボート競走会から救急自動車の寄贈を受け、南消防署に配置する。
	11月25日	△初の救急救命士が南消防署で配置につく。
消防	11月27日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。
	12月18日	△株式会社近畿建設産業から救急自動車の寄贈を受け、北消防署に配置する。
団	12月29日	△消防無線市波1波を増波(151.810MHz)し、設備の運用を開始する。
	平成5年	
沿革	3月 2日	△自治体消防45周年記念式典を挙げる。
	3月 6日	△尺谷婦人防火協力会が会員15名をもって結成される。
史	3月22日	△消防ポンプ自動車を購入し、山田分団に配置する。
	4月 1日	△第8代消防長に、小林寿夫氏就任。 △4週8休制を実施する。 △迅速かつ的確な消防体制の確立と救急業務の充実を図るため組織機構の改革を行う。 消防体制は1本部5課15係4署20係3出張所となる。
	11月28日	△「自治体消防45周年記念消防未来博'93」に吹田市婦人防火協力会連絡協議会として参加する。

年 月	記 事	総務 予 防 警 防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿 革 史
平成5年		
11月30日	△消防ポンプ自動車を購入し、千二分団に配置する。	
12月24日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。 △消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。	
平成6年		
3月 4日	△岸部寺内婦人防火協力が会員9名をもって結成される。	
3月11日	△高規格救急自動車を購入し、南消防署に配置する。	
8月20日	△吹田市文化会館において消防フェスティバルを実施する。	
10月27日	△吹田市婦人防火協力が大阪府の代表として、横浜市で開催された第10回 全国婦人消防操法大会に参加する。	
平成7年		
1月17日	△5時46分、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)発生。火災2件、救助19件、救急 54件等総出動件数173件。被害状況は死者1名、負傷者21名、家屋の全壊10棟、 半壊及び一部損壊多数あり。 吹田市が災害救助法の適用を受け、災害対策本部の設置とともに避難所が開設 される。	
1月17日 }	△兵庫県下の被災地に対し、車両延べ66台、職員延べ189名、団員5名が支援活 動に出動する。	
3月 9日		
2月13日	△消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に配置する。	
2月16日	△小型動力ポンプ付積載車を購入し、山田分団別所班に配置する。	
3月28日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署に配置する。	
4月 1日	△第9代消防長に、山崎 学氏就任。 △東消防署岸部出張所・岸部分団合同庁舎の改築工事が完了し、供用開始する。	
12月17日	△吹一分団車庫・詰所の移転新築工事が完了し、供用開始する。	
平成8年		
1月25日	△震災時の大規模災害に対応するため、消防団3分団1班に可搬式小型動力ポン プ一式を配置する。	
3月 6日	△38メートル級はしご付消防自動車を購入し、西消防署に配置する。	
3月13日	△災害対応特殊救急自動車を購入し、北消防署に配置する。	
3月14日	△消防ポンプ自動車(照明装置付)を購入し、救急救助課に配置する。	
3月22日	△原町婦人防火協力が会員19名をもって結成される。	
9月16日	△高架道路補強工事に伴う豊津分団車庫・詰所の改築工事が完了し、供用開始 する。	
12月20日	△消防ポンプ自動車を購入し、豊津分団に配置する。	

総務予防警防指令救急救火災消防団沿革史	年 月	記 事
	平成9年	
	1月27日	△消防ポンプ自動車を購入し、南消防署南正雀出張所に配置する。
	3月24日	△高規格救急自動車を購入し、西消防署に配置する。
	4月 1日	△消防緊急通信指令施設の大規模修理が完了し、運用を開始する。 △定数配分の見直しにより、東消防署岸部出張所の救急自動車を単独運用する。
	平成10年	
	1月22日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹一分団に配置する。
	3月 1日	△消防無線全国波を2波増波(148.75、154.15MHz)し、運用を開始する。
	3月 9日	△自治体消防50周年記念式典を吹田市文化会館において挙げる。
	3月18日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署岸部出張所に配置する。
	3月20日	△起震車を購入し、東消防署に配置する。
	3月30日	△消防緊急通信指令施設に発信地表示システムを設置
	4月 1日	△指揮体制を確立するため「吹田市消防本部警防規程」を制定するとともに、警備司令不在時の当直責任者として各署に救急救助司令を配置する。
	7月 1日	△指令調査課、救急救助課、南・北・西・東消防署に画像伝送装置(携帯電話方式・無線方式)を配置する。
		△大阪府防災行政無線の運用を開始する。
	10月17日	△江坂町婦人防火協力会が会員23名をもって結成される。
	11月 6日	△市内4幼稚園(山手幼稚園、千里幼稚園、千里山グレース幼稚園、千里丘学園幼稚園)において幼年消防クラブが結成される。
	11月30日	△国道479号線高架橋耐震補強工事に伴う吹二分団車庫・詰所の改修工事が完了し、供用開始する。
	平成11年	
	1月19日	△消防ポンプ自動車を購入し、千里丘分団に配置する。
	2月 1日	△第7代消防団長に、山本利章氏就任。
	2月17日	△南正雀1丁目在住の竹内美恵さんから寄贈を受けた団長司令車を消防本部に、軽査察車を東・西・南消防署に配置する。
	18日	
	2月19日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に配置する。
	3月14日	△藤栄会婦人防火協力会が会員15名をもって結成される。
	3月31日	△消防本部・南消防署合同庁舎耐震改修工事(1,2階部分)が完了する。
	4月 1日	△第10代消防長に、奥谷 有氏就任。
	12月15日	△消防ポンプ自動車を購入し、岸部分団に配置する。

年 月	記 事	総務 予防 警防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿 革 史
平成12年		
1月14日	△吹三分団車庫・詰所用地を購入する。	
2月18日	△高規格救急自動車を購入し、南消防署に配置する。	
3月30日	△南金田1丁目13番28号 東洋ポリマー(株)プレハブ棟出火、鉄骨造2階建て事務所兼作業場全焼、類焼建物4棟、焼損面積899㎡、損害額131,165千円。	
4月 1日	△吹田市文化会館大ホールにて、吹田市制施行60周年記念式典の第二部として、吹田市消防音楽隊発足10周年記念演奏会を開催する。	
5月13日	△豊一婦人防火協力会が会員32名をもって結成される。	
5月20日	△吹田東ライオンズクラブから防災用エアテント一式の寄贈を受け、東消防署に配置する。	
10月 3日	△音楽隊マイクロバスを購入し、救急救助課に配置する。	
平成13年		
3月28日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署に配置する。	
3月29日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹二分団に配置する。	
4月 1日	△女性消防吏員2名を採用する。	
5月 1日	△固定的性別役割分担意識の払拭と男女共同参画社会の実現のために、「吹田市婦人防火協力会」の名称を「吹田市家庭防火クラブ」に改称する。	
5月16日	△固定的性別役割分担意識の払拭と男女共同参画社会の実現のために、「婦防さつき会」の名称を「防火さつき会」に改称する。	
10月 3日	△消防団の現場外とう77着を更新する。	
平成14年		
2月 5日	△消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。 △小型動力ポンプ付水槽車を購入し、救急救助課に配置する。	
3月 8日	△高規格救急自動車を購入し、北消防署に配置する。	
4月 1日	△女性消防吏員2名を南消防署の救急隊員(隔日勤務)として配置する。	
5月 1日	△西消防署千里出張所の移転建築工事が完了し、供用開始する。 △定数配分の見直しにより、西消防署千里出張所の救急自動車を単独運用する。	
9月 5日	△小型動力ポンプ付積載車を購入し、千二分団春日班に配置する。	
10月28日	△高規格救急自動車を購入し、西消防署千里出張所に配置する。	
12月13日	△消防ポンプ自動車を購入し、千一分団に配置する。 △水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署岸部出張所に配置する。	
平成15年		
2月15日	△南正雀家庭防火クラブが会員22名をもって結成される。	
4月 1日	△第11代消防長に、加登 孝三郎氏就任。	
4月23日	△山田南52番5号(株)ジャパン吹田店出火、鉄骨造平屋建て店舗全焼、類焼建物3棟、煙損建物6棟、焼損面積(床941㎡、表580㎡)、損害額134,796千円。	

総務予防火指 令救急救火災消防団沿革史	年 月	記 事
	平成15年	
	10月30日	△高規格救急自動車を購入し、西消防署に配置する。
	12月11日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西消防署に配置する。
	平成16年	
	1月 9日	△救助工作車を購入し、救急救助課に配置する。
	1月17日	△東御旅町5番8号、株式会社千日総本社第2工場出火、鉄骨造平屋建て工場全焼、 類焼建物3棟、焼損面積1250㎡、損害額98,914千円。
	2月28日	△山五家庭防火クラブが会員20名をもって結成される。
	3月17日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹三分団へ配置する。
	4月 1日	△吹田市と京都府乙訓消防組合の名神高速道路における消防相互応援協定を締結 する。
	4月11日	△元町33番 住宅火災 類焼建物15棟、その他類焼車両1台及び類焼物品。焼損面積 (床679㎡、表188㎡)、損害額135,364千円。
	8月27日	△気管挿管認定救急救命士が誕生する。
	9月 5日	△岸部分団が第48回大阪府消防操法訓練大会・ポンプ車操法の部で優勝。
	10月21日	△台風23号による豪雨災害で、兵庫県豊岡市へ緊急消防援助隊として救助隊1隊 (非常用R1台、隊員5名)を派遣し12名を救出する。
	平成17年	
	3月15日	△はしご付消防自動車を購入し、北消防署に配置する。
	4月 1日	△第12代消防長に、廣瀬 茂氏就任。
		△消防組織機構を再編し、本部2室5課・4署3出張所体制とする。
		△吹田市消防団へ定年制度を導入する。
	4月25日	△J R 福知山線脱線事故で兵庫県尼崎市へ緊急消防援助隊として救急隊1隊を派遣 する。
	7月 9日	△台風23号による豪雨災害(平成16年10月)に伴う救助活動の功績により大阪の 消防大賞・特別賞を受賞する。(緊急消防援助隊大阪府隊)
	8月25日	△資機材搬送車を購入し、救急救助課に配置する。
	11月16日	△消防ポンプ自動車を購入し、山田分団へ配置する。
	12月 1日	△携帯電話による119番通報が直接受信方式となる。
	12月 6日	△化学消防車を購入し、救急救助課に配置する。
	12月28日	△消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。
	平成18年	
	2月 2日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署岸部出張所に配置する。
	3月15日	△薬剤投与認定救急救命士が誕生する。
	4月 1日	△緊急消防援助隊に消火隊1隊を追加登録し、消火隊3隊・特殊装備隊1隊となる。

年 月	記 事	総務 予防 警防 指令 救急 救助 火災 消防団 沿革史
平成18年		
7月 7日	△東旭町家庭防火クラブが会員21名をもって結成される。	
11月15日	△吹田市消防本部・西消防署合同庁舎供用開始。 △高機能消防指令センター供用開始。	
11月17日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。	
12月20日	△高規格救急自動車を購入し、南消防署に配置する。	
平成19年		
2月18日	△大阪中央環状線西行き、津雲台7丁目7番付近において大型観光バス（あずみ野観光）による単独事故発生、死者1名・負傷者26名。	
4月 1日	△第8代消防団長に、村下 清氏就任。 △緊急消防援助隊に救急隊1隊を追加登録し、消火隊3隊・特殊装備隊1隊・救急隊1隊となる。 △消防本部警防指令室救急救助課に指揮支援隊を配置する。 △携帯電話による119番通報に係る位置情報通知システムを運用する。	
4月 8日	△佐井寺地区連合家庭防火クラブが会員19名をもって結成される。	
5月 5日	△千里万博公園エキスポランドにおいて遊具（風神雷神Ⅱ）事故発生。 死者1名・負傷者33名。	
7月28日	△第36回消防救助技術近畿地区指導会・ロープブリッジ救出の部において 吹田市A・Bチームが入賞し、吹田市Bチーム(第2位／47チーム)が、第36回全国消防救助技術大会(東京都:8月22日)に出場する。	
10月 4日	△元吹田市消防団・豊津分団副分団長・樋口勝治氏から指揮車が寄贈される。	
12月21日	△市内在住の井田尚文氏からAED11台が寄贈され、署所6台・車両5台に配置する。	
12月24日	△吹田市消防団吹三分団車庫・詰所を供用開始する。	
平成20年		
1月22日	△吹田市防火連合会からコルネットほか楽器・録音機材等一式が寄贈される。	
2月12日	△はしご付消防自動車を購入し、東消防署に配置する。	
2月13日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署に配置する。	
2月28日	△ポンプ付救助工作車を購入し、救急救助課に配置する。	
3月 2日	△吹田市文化会館大ホールにて、自治体消防制度発足60周年記念式典及び吹田市消防音楽隊20周年記念演奏会(式典第2部)を実施する。	
3月25日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。	
4月 1日	△第13代消防長に、俊多希憲氏就任。	
5月23日	△岸部北4丁目、吉志部神社本殿出火、木造かわらぶき板張り壁平屋建て神社全焼、類焼2件及び自然林焼損。焼損面積218㎡。損害額278,764千円。	

総務 予防 警防 指 令 救急 救 助 火 災 消 防 団 沿革史	年 月	記 事
	平成20年	
	6月 2日	△救急車内から心電図と動画像を病院にリアルタイムに伝送するモバイル・テレメディシンシステムを運用開始する。
	10月 1日	△増加する救急需要に対応するため、北消防署に救急隊を1隊増隊し、第2救急隊を配備する。これにより常備救急隊数は7隊運用となる。
	11月 9日	△高規格救急自動車を購入し、北消防署に配置する。
	11月17日	△消防ポンプ自動車を購入し、千二分団に配置する。
	平成21年	
	1月28日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、千里出張所に配置する。
	2月23日	△はしご付消防自動車を購入し、南消防署に配置する。
	4月 1日	△女性消防吏員 1 名を西消防署の消防隊員(隔日勤務)として配置する。
	4月12日	△乾町家庭防火クラブが会員12名をもって結成される。
	5月16日	△吹田市内において新型インフルエンザ(A/H1N1型)が流行する。 平成21年中の累計救急搬送人員(疑いを含む。)144人
	7月19日	△山三地区家庭防火クラブが会員31名をもって結成される。
	11月26日	△消防ポンプ自動車を購入し、豊津分団に配置する。
	12月25日	△消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に配置する。
	平成22年	
	1月 9日	△小型動力ポンプ付積載車を購入し、山田分団別所班に配置する。
	1月29日	△南消防署耐震改修及び仮眠室等設置工事が完了し、供用開始する。
	3月10日	△高規格救急自動車を購入し、北消防署に配置する。
	12月24日	△高規格救急自動車を購入し、千里出張所に配置する。
	平成23年	
	2月14日	△消防ポンプ自動車を購入し、西消防署に配置する。
	3月11日	△「東北地方太平洋沖地震」に伴い、岩手県大槌町へ緊急消防援助隊大阪府隊として4隊38名、延べ226名を派遣、被災地にて救助活動を行う。
	3月22日	△水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に配置する。
	4月 1日	△第14代消防長に、松中唯人氏就任。 △第9代消防団長に、海原 明氏就任。
	平成24年	
	1月27日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹一分団に配置する。
	2月28日	△高規格救急自動車を購入し、西消防署に配置する。
	3月 3日	△消防ポンプ自動車を購入し、南正雀出張所に配置する。
	4月 1日	△機構改革を行い、本部3室5課・4署3出張所体制とする。
	5月30日	△元吹田市・豊津分団長杉林巖氏からA E D 3台・A E D トレーナー4台が寄贈され、各署に配置する。

年 月	記 事	総務予防警消防指急救急救助火災消防団沿革史
平成24年		
7月14日	△第41回消防救助技術近畿地区指導会・ロープブリッジ救出の部において吹田市A・Bチームが入賞し、吹田市Aチーム(第2位／48チーム)が、第41回全国消防救助技術大会(東京都:8月7日)に出場する。	
12月26日	△高規格救急自動車を購入し、岸部出張所に配置する。	
平成25年		
2月12日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。	
2月25日	△日本損害保険協会から小型動力ポンプ付積載車1台が寄贈され、千二分団春日班に配置する。	
11月21日	△高規格救急車を購入し、南消防署に配置する。	
平成26年		
1月24日	△消防ポンプ自動車を購入し、岸部分団並びに千里丘分団に配置する。	
2月13日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署岸部出張所に配置する。	
4月 1日	△第15代消防長に、村上博之氏就任。	
6月 2日	△吹田市建設業防火協会設立50周年記念式典をメイシアターにて挙げる。	
7月26日	△第43回消防救助技術近畿地区指導会・ロープブリッジ救出の部において吹田市Aチームが入賞、並びに全国大会出場権を得る。(第43回全国消防救助技術大会(千葉県)は広島市にて大雨に起因する土砂災害発生のため中止。)	
9月 7日	△第二小隊(吹二分団・千二分団・豊津分団)が第58回大阪府消防操法訓練大会・ポンプ車操法の部で優勝。	
10月29日	△高規格救急車を購入し、東消防署に配置する。	
12月17日	△指揮支援車を購入し、指令情報室に配置する。	
平成27年		
1月15日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西消防署千里出張所に配置する。	
4月 1日	△第10代消防団長に、岡本一弘氏就任。	
10月19日	△高規格救急車を購入し、北消防署に配置する。	
11月27日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹二分団に配置する。	

総務 予防 警防 指令 救急 救 助 火災 消防団 沿革史	年 月	記 事
	平成28年 1月 1日	△平成27年中の火災件数が48件で、55年ぶり（昭和35年以来）に50件を下回り、出火率（人口1万人当たりの出火件数）も過去最低の1.31となる。
		火災件数及び出火率の推移 件 万国博覧会 (S45 244件) 阪神淡路大震災 (H7) 東日本大震災 (H23) 千里ニュータウン まちびらき (S37) 火災件数 出火率 S23 S26 S29 S32 S35 S38 S41 S44 S47 S50 S53 S56 S59 S62 H2 H5 H8 H11 H14 H17 H20 H23 H26
	1月26日	△吹田市公衆集合場防火協会設立50周年記念式典を新大阪江坂東急R E I ホテルにて挙行する。
	1月28日	△15m級はしご付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。
	3月 9日	△吹田市・摂津市消防指令センターの共同運用を開始する。
	4月 1日	△機構改革を行い、本部3室・4署3出張所体制とする。 △救急隊増隊等に伴い、職員条例定数を363人とする。
	4月16日	△「熊本地震」に伴い、熊本県へ緊急消防援助隊大阪府隊として3隊22名を派遣、被災地にて救助活動を行う。
	平成29年	
	1月25日	△高規格救急車を購入し、北消防署に配置する。
	3月 1日	△高度救助隊発隊式中消防庁舎にて挙行する。 △救助工作車Ⅲ型を購入し、中消防庁舎に配置する。
	4月 1日	△第16代消防長に、村上和則氏就任。 △増加する救急需要に対応するため、救急隊を1隊増隊し南消防署に第2救急隊を配備すると共に、高規格救急自動車を購入し南消防署に配置する。 これにより常備救急隊を8隊運用とする。
	12月14日	△消防ポンプ自動車を購入し、千一分団に配置する。
	平成30年	
	1月19日	△高規格救急自動車を購入し、西消防署千里出張所に配置する。
	3月 2日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。

年 月	記 事	総務予防火指急救火災消防団沿革史
平成30年		
4月 1日	△増加する救急需要に対応するため、救急隊を1隊増隊し中消防庁舎に東消防署の第2救急隊として配備すると共に、高規格救急自動車を購入し中消防庁舎に配置する。これにより常備救急隊を9隊運用とする。	
	△北部消防庁舎等複合施設建設準備に伴い、職員定数条例を369人とする。	
4月22日	△吹田市文化会館メイシアターにおいて自治体消防制度発足70周年記念式典及び吹田市消防音楽隊発足30周年記念演奏会を挙げる。	
6月18日	△7時58分、大阪北部地震発生。火災0件、救助30件、救急52件等出動件数112件。本市人的被害は負傷者62名。	
7月 9日	△「平成30年7月豪雨」に伴い、広島県へ緊急消防援助隊大阪府隊として8隊32名を派遣、被災地にて救助活動を行う。	
11月28日	△山田北7番1号 コーナン千里山田店出火、鉄骨造陸屋根鉄板張り平屋店舗全焼、焼損面積2,785㎡、損害額282,457千円	
11月29日	△消防ポンプ自動車を購入し、吹三分団に配置する。	
12月25日	△調査車を購入し、指令情報室に配置する。	
12月26日	△千二分団車庫・詰所の移転整備が完了し供用開始する。	
平成31年		
2月 7日	△高規格救急自動車を購入し、西消防署に配置する。	
3月16日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に配置する。	
4月 1日	△第11代消防団長に、奥田善孝氏就任。	
令和元年		
12月23日	△消防ポンプ自動車を購入し、山田分団に配置する。	
令和2年		
2月20日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署岸部出張所に配置する。	
3月19日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西消防署に配置する。	
4月 1日	△第17代消防長に、笹野光則氏就任。	
9月25日	△藤永美年子氏から指揮車及び広報車の寄贈を受け、警防救急室警防グループ及び総務予防室予防グループに配置する。	
12月10日	△高規格救急自動車を購入し、南消防署に配置する。	
令和3年		
2月 1日	△豊中市・吹田市・池田市・箕面市・摂津市消防通信指令事務協議会を設置する。	
2月22日	△マイクロバスを購入し、中消防庁舎に配置する。	
3月17日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。	

総務 予防 警 防 指 令 救 急 救 助 火 災 消 防 団 沿革史	年 月	記 事
	令和3年	
	11月10日	△高規格救急自動車を購入し、東消防署に配置する。
	12月 3日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、東消防署に配置する。
	令和4年	
	3月 2日	△救助工作車Ⅱ型(消防ポンプ装置付)を購入し、中消防庁舎に配置する。
	4月 1日	△吹田市消防団に女性消防団員(4月1日付け 3名)が入団する。
	10月27日	△消防ポンプ自動車を購入し、千二分団に配置する。
	11月10日	△高規格救急自動車を購入し、北消防署に配置する。
	12月 9日	△C A F S 装置搭載小型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、西消防署に配置する。
	令和5年	
	1月20日	△司令車を購入し、東消防署に配置する。
	4月 1日	△予備定数枠の確保及び救急隊の増隊を行うため、職員条例定数を384人とする。
	11月18日	△吹田市南消防署南正雀出張所の完成披露式を挙げる。
	11月24日	△消防ポンプ自動車を購入し、南消防署南正雀出張所に配置する。
	12月 1日	△吹田市南消防署南正雀出張所の移転整備が完了し供用開始する。 △南消防署の第2救急隊を南消防署南正雀出張所の救急隊として配備する。
	令和6年	
	1月 1日	△「令和6年能登半島地震」に伴い、石川県に緊急消防援助隊大阪府大隊として8隊31名を派遣、被災地にて救助活動を行う。
	2月 3日	△吹田市総合防災センター(DRC Suita)の完成披露式を挙げる。
	2月23日	△管轄人口約114万人(豊中市・吹田市・池田市・箕面市・摂津市・豊能町・能勢町)の北大阪消防指令センター(NOC119)完成披露式を挙げる。
	3月 8日	△吹田市総合防災センター(DRC Suita)完成に伴い、北消防署及び中消防庁舎の機能を統合する。
	4月 1日	△旧北消防署の敷地内に、北消防署北千里仮出張所を開所する。 これに伴い消防本部の機構改革を行い、本部3室・4署4出張所体制とする。 △救急隊を1隊増隊し、南消防署の第2救急隊を南消防署に配備するとともに高規格救急自動車を購入し、南消防署南正雀出張所に配置する。 これにより常備救急隊を10隊運用とする。 △北大阪消防指令センター(NOC119)を運用開始する。
	令和7年	
	2月 3日	△高規格救急自動車を購入し、北千里出張所に配置する。
	2月14日	△高規格救急自動車を購入し、千里出張所に配置する。
	3月11日	△消防ポンプ自動車を購入し、北消防署に配置する。
	3月19日	△15m級はしご付消防ポンプ自動車を購入し、南消防署に配置する。
	4月 1日	△第18代消防長に、山田武史氏就任。